

# 体育社会学専門領域

石澤 伸弘（北海道教育大学 札幌校）

## 1. あらまし

スポーツは社会を映す鏡であると言われます。現代社会におけるスポーツの系譜を社会学の視点から理論的かつ実践的に探求しているのが、当、体育社会学専門領域です。社会学の基礎理念と理論を適用し、スポーツの持つ多様で複合的な側面にも目を向け、その社会的背景や社会現象への理解も深める研究活動を行っております。

## 2. 内外の研究動向

国内での研究動向を見てみると、昨今、社会問題化している「体罰問題」に焦点が当てられています。2014年度の日本体育学会第64回大会(於：立命館大学)において、当、体育社会学専門領域では専門領域の企画として「学校運動部における『体罰』一問題の所在とその批判的検討―」というタイトルのシンポジウムを開催しました。このシンポジウムでは、学校運動部の体罰を巡る問題の所在と共に、体罰を惹起させる構造とメカニズム、ダイナミズムなどについて指導現場、学校教育現場の空間構造、スポーツと暴力などの視点から批判的に「体罰」を検討し、乗り越えの契機を探るための活発な意見交換がなされました。

また、海外の研究動向に目を向けると、2014年の7月にはWorld Congress of Sociology (WCS) 2014 in Yokohama, (世界社会学会議 横浜大会)が実施され、その中のResearch Committee (RC) に所属しているInternational Sociology of Sport Association(ISSA : 国際スポーツ社会学会)のブースも設置されました。学会期間中には世界各国から多くのスポーツ社会学者が来日され、日本のスポーツ社会学者との交流をとおして、たいへん有意義で知的刺激の多い会議となりました。

## 3. 科学的知見の応用の状況

トピックのタイトルからは若干ズレてしまいましたが、当、体育社会学専門領域では日本体育学会で発表する際には6ページのフルペーパーを提

出いただき、「発表論文集」という形にまとめております。

日頃の研究成果を、字数の限られた抄録のみで説明することは限界があります。しかし、これを作成することで、学会時にはより踏み込んだ研究のディスカッションが展開され、多くのコメントやサジェスションを受けることも可能となります。「学術論文」の書き方のトレーニングにもなりますので、特に院生の皆さまにはおすすめです。

#### 4. 学校体育や大学体育に活かすべき最新知見

上記した「体罰」の問題だけではなく、学会発表では学校体育にまつわるトピックも多く見られるようになって来ました。「武道の必修化」や「部活動」、あるいは「高校野球」や「体育の授業」などをメインテーマとした研究が活発に行われています。また、大学教員のみならず、中学校や高等学校で教壇に立つ先生方の参加も数多く見られ、校種の枠を超えたディスカッションも頻繁に行われています。そのような中で、学校体育や大学体育に活用できる最新の知見も示されています。

#### 5. 若手研究者へのメッセージ

自分の好きなことや、興味があることから研究に発展していくのは理想な形です。体育社会学は「間口の広い研究領域」と言われています。最近のスポーツを見てみると、「するスポーツ」だけではなく、「見る(観る)スポーツ」や「支えるスポーツ」といった参与形態もより多様なものになって来ました。若手の研究者の皆さんには是非興味がある部分から研究に取り組んでいただき、徐々に奥行きを深めていってもらいたいと思います。間口の広い体育社会学専門領域は研究のキッカケも容易に見つけることができると思います。

#### 6. 引用文献

日本体育学会第64回大会 予稿集